

3

A long time ago, there was a traveler walking in the forest.

“Oh no, I give up. I am totally lost...Where am I? It’s going to be dark soon, maybe I will have to sleep in the open tonight.”

Then, he realized there was a hazy light in between the trees far in the distance.

“Yes, I’m so relieved! I should sleep there tonight.”

The traveler knocked on the door.



5

"Excuse me, is anyone there?"

"...Yes, who are you?"

A petite, old lady peeked over the door.

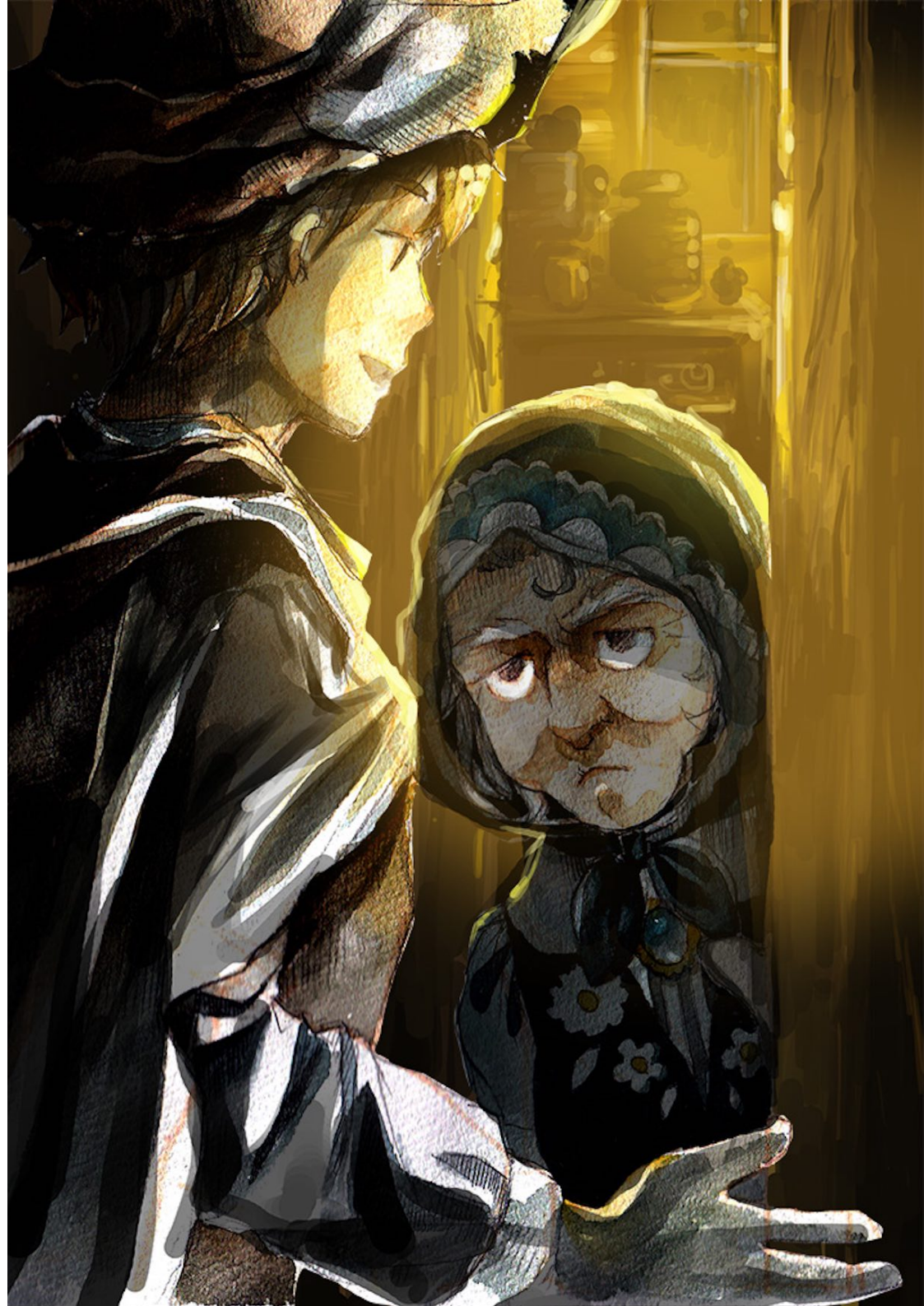
"My name is Ed. I travel around the world and explore different places. If it doesn't bother you, could you please let me stay over for a night?"

"No, my house isn't an inn. Goodbye, go somewhere else."

"Please, let me stay."

"I said no! Don't continue to annoy me!"

She tried to shut the door.



21

むかし、ひとりの たびびとが、  
もりの なかを あるいていました。

「ふう、これは まいったな。  
すっかり みちに まよってしまった。  
もうすぐ よるになる。  
こんやは どこかで のじゆくかな」

すると、すこし はなれた きぎの あいだから、  
ぼんやりと あかりが ともっているのに  
きがつきました。

「おお、これは たすかった！  
こんやは ここに とめてもらおう」

たびびとは いえの ドアを たたきました。



「すみません、だれか いませんか」

「・・・はいよ、だれだい？」

ドアから かおを のぞかせたのは、  
こがらな おばあさんでした。

「わたしは『エド』と もうします。

せかいじゅうを たびして あるいている ものです。

よろしければ、こんや ひとばんだけ

とめていただけないでしょうか」

「だめだね。うちは やどやじゃ ないんだよ。

ほら、さっさと どこかにいきな」

「そこをなんとか」

「だめだって いってるだろ！しつこいねえ」

おばあさんは ドアを しめようとしてました。

